

# 道徳の時間の終末で活用する

## 本場面におけるポイント

- **考えたことを整理する**  
「心のノート」の言葉や文、自分が記入したことなどを生かして、考えたことを自分なりにまとめる。
- **感動したことを確かめる**  
「心のノート」にある名言やメッセージを見て、感動したことを確かめ、自分の心に刻もうとする。
- **関連するページからこれからへの課題をもつ**  
「心のノート」での問い掛けや投げ掛けを自分のこととして受け止め、これからの生き方についての思いや課題をもつ。



## ● 「心のノート」を読むことで感動したことなどを確かめる（第6学年）

- 1 主題名 分け隔てのない心〔内容項目4-（2）〕
- 2 中心的な資料 「愛の日記」（文部省資料・平成6年）
- 3 ねらい 誰に対しても差別や偏見をもつことなく、公平にして、正義の実現に努めようとする態度を育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫  
◇活用するページ: 5・6年用P.84～87「**どうしてゆがめてしまうのか?**」  
◇終末の段階での生かし方: 終末で、P.84～85を開いて子ども一人一人が読む時間を作り、自分の感動などを確かめられるようにする。

### 5 展開の概要

学習活動の流れ
1 「公平でないな。」と感じるについて話し合う。
2 資料「愛の日記」を読んで、「わたし」の気持ちや考えを中心に話し合う。 ○さびしそうなリャンちゃんを見たときの「わたし」 ○父の話を聞きながら考えを巡らせる「わたし」など
3 誰にも分け隔てなく接している人について、本で読んだりしたことを話し合う。
4 5・6年用P.84～85を一人一人が見て、自分の感じたこと、考えたことを確かめる。



「心の窓をくもらせない」

◇教師が読むのではなく、一人一人が自由に読んだときの受け止め方を大切にする。P.87の「心の窓をくもらせない」などを生かすことも考えられる。

## 6 「心のノート」活用の実際

道徳の時間の終末では、教師が「こうしてください」「こうすることが大切です」と考え方を強く示し過ぎて、反感を抱いてしまうこともある。

そこで、「このページにいいことが書いてあるよ。」と誘うように「心のノート」を配布して、「一人一人で見ながら今日の話を振り返ってみよう。」と投げ掛けた。

## 子どもが自ら考えを整理し今後につなげる

そうすることで、子どもは自分なりの価値観をつくり、生き方への思いや課題をもつことができると考えた。

不公平だなと疑問をもっても、どうしていいのかわからない。このクラスにも、今日のことと似たようなことがあるかもしれない。もっと自分に積極的になろう……。



「心のノート」のメッセージを感じ取る

## ● 「心のノート」に書かれている言葉を紹介し合って今後につなげる（第1学年）

- 1 主題名 みんなのことを考えて〔内容項目4-（1）〕
- 2 中心的な資料 「ごちそうさまのあとで」（文部科学省資料・平成23年）
- 3 ねらい みんなで使うものを大切に、約束やきまりを守ろうとする心情を育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫  
◇活用するページ: 1・2年用P.72～75「**やくそくやきまりをまもろう**」  
◇終末の段階での生かし方: P.75に書き込んである内容を紹介し合うことによって、日常の中でみんなで使うものを大切にしたり、約束やきまりを守ろうとしたりする気持ちを高めていく。

### 5 展開の概要

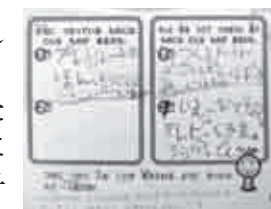
学習活動の流れ
1 あふれたごみ箱や汚れているトイレなど約束やきまりが守られていないものや場所の写真を見て、感じたことを発表し合う。
2 資料「ごちそうさまのあとで」を読んで、スプーンかごの気持ちやみっちゃんやけんちゃんの気持ちについて話し合う。 ○スプーンが整理されているときのスプーンかごの気持ち ○スプーンがはみ出して入れられたときのスプーンかごの気持ち ○スプーンを揃えてくれたみっちゃんやけんちゃんの気持ち
3 次に使う人のことを考えて行動できたこと、できなかったことを思い起こす。
4 P.75に書き込んである内容に目を通したり、紹介し合ったり、新たに書き込んだりする。

◇P.75「やくそくやきまりをまもろう」に記述されている内容に共感的なコメントをしておき、終末段階で自らの記述だけでなく、教師のコメントにも目を通すことができるようにすることで、ねらいとする道徳的価値に対する考えを深められるようにしておく。

## 6 「心のノート」活用の実際

子どもは、「心のノート」のP.75に大切に使っているものや、これからもっと気を付けて使おうと思うものを記述していた。

また、P.74の挿絵を見て、みんなで使用するものを紹介し合ったときは、身近なものを単に紹介するだけでなく、そのときの出来事にも触れて、話し合う姿が見られた。4-（1）の「公德心」の視点を子ども自身が自分の経験を基に捉えることができたものと考えられる。



子どもの記入例

# 道徳の時間の終末で活用する

道徳的価値への憧れと、実践意欲を育む

### 本場面におけるポイント

- 道徳的価値についての自覚を深め将来の実践へつなぐ  
終末場面での「心のノート」の活用は、追求した道徳的価値や内容について考えを深めたり、まとめたりすることにより、道徳的価値への憧れをもち、実践への密かな決意をするのに役立つ。
- 余韻をもたせ今後の活動につなぐ  
終末場面は短時間での効果的な活用を工夫し、関連ページを読んだり、書き込みを行ったりしながら、余韻をもたせて終わることに心掛けたい。



### ● 様々なページの多様な活用を考えた事例 (第3学年)

- 1 主題名 君ならどう生きる [内容項目3-(1)]
- 2 中心的な資料 「たとえぼくに明日はなくとも」 (文部省資料・平成5年)
- 3 ねらい  
限りある生命を精一杯生きることの大切さを理解させるとともに、かけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てる。
- 4 展開の概要

(1) 「心のノート」中学校用P.84を読み、感想を話し合うことにより、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。

(2) 資料を読み、正一と父親の言動をもとに、生命について考える。

(3) 私たちは、二度とない人生を、どのように輝かせているかについて話し合う。

(4) 「心のノート」の関連ページを活用してまとめる。



中学校用P.84

### 5 「心のノート」活用の実際

#### ◆ 導入と同じページを読み、余韻をもたせて終わる事例

指示・発問例



この授業の初めに読んだ、84ページの詩をもう一度読んでみよう。

同じところを読んだのに、別の詩を読んでいるような感じで驚いた。正一君の切なさや、決心が全部この詩の中に表れているような気がして涙が出そうになった。



#### ◆ 導入と異なる関連ページを読んで、感想を出し合う事例

指示・発問例



「心のノート」86ページの「いつか終わりがあること」を読んでみよう。

指示・発問例



この詩を読んで、人生や命についてどんなことを考えましたか。



中学校用P.86

「自分の命だって、きっと終わりがやってくる」という言葉に、ドキッとしました。正一君は、そのときが早かっただけで、ぼくたちも同じなんだと思った。

前半は、なんか悲しくなるけど、後半は、やる気が出てくる詩だ。どうやって自分を輝かせられるか考えてみようという気になった。早く自分なりの答えを見つけない。

#### ◆ 関連ページへの書き込みや紹介をして終わる事例

中学校用P.74

指示・発問例



今日の学習を通して学んだこと、感じたことを74ページの「道徳の時間で」のところに書き込もう。

中学校用P.72~73



指示・発問例

「74ページのほか、73、75ページにも記入できる欄があります。感じたこと、考えたことがあったらいつでも自由に記入してください。74ページは、皆さんが生まれた日のことや幼かった頃のことを家の人に聞きながら記入することもできます。誕生日などに取り組むのもいいですね。」